

442
八
18

家
出羽路

八



けりのもち

登	6112	登	6518
函	442	函	442
番	18	番	11

ハ
卷

平鹿郡 八卷

琵琶清水

浅舞

寄郷十村

水郷のみくら 樽見内

子女の里 住吉荒田目

とくもあこ 砂子田

柳のあふえ 栗舎 作

園見のいな田 上鍋倉

麻根の清水 中土田

いぬけこーぶ 下鍋倉

浅茅輪村 下土田

月のあふれ 十五野

やま石くら 東石塚

秋田縣立
横手分館

6513
442
11

浅舞村

里長小松田和兵衛

大正拾五年三月拾八日

此國より某^{ナニ}某^{ナニ}某^{ナニ}と云ふ地名^{ナドミ}と云ふ所^{トコロ}をすえたるをハ

本^ホ前^{マエ}を云うにこそある浅舞ハ朝前^{アサマエ}をといふ方言^{コト}を惣^{オホ}

書記^{シキ}より浅^{アサ}舞^{マエ}といふのかまゝ舞^{マエ}いふは^ハ舞^{マエ}といふ言^{コト}

法の轉^{ウツリ}カ山本^{ヤマモト}郡^{グン}浅内^{アサナイ}村^{ムラ}あり浅舞^{アサマエ}浅内^{アサナイ}云^イひ似^ニれやも浅内^{アサナイ}ハ是

本^ホ據^エ吏^リ詞^ジのうり多^タくまゝ此^コ亦^モいふ此^コ浅舞^{アサマエ}の南^{ミナミ}の方に舞臺^{ダンス}

松^{マツ}と大松^{オホマツ}の下^ノ本^ホ生^ナいまりと云へハ鑑照^{カンショ}君^{キミ}ハ市代^{イチヨ}の子^コにて

なりし^{ナリシ}ま^マ此^コ君^{キミ}の郷^{キョウ}に浅城^{アサキ}ありしとき空^{ソラ}高く鶴^{ツル}のうり群^{グン}来^キ

て舞臺^{ダンス}松^{マツ}の上^ノに旭^{アサヒ}のかけらありといひむのうりて舞臺^{ダンス}ぶてわか

愛^{アイ}しく君^{キミ}を見^ミゆる給^{タマフ}いて市代^{イチヨ}に市代^{イチヨ}をい松^{マツ}の家^イのちぬをめ^メて此^コ郷^{キョウ}に

ありて郷^{キョウ}の名^ナも朝舞^{アサマエ}と云ふけいまいと云うりけれハ浅舞^{アサマエ}

浅舞村一



文字こそわかれ今もさういふ所もなかりしものなり
 て云く人ものれに記す文字改りていふに記す所ありしものなり
 羽林左中將公市遷封時小野寺義道子左京進光道住居
 却時此城破却と見え 湯澤へ三里五丁 横へ三里三丁 四拾四間
 大澤へ三里三丁 四拾八間 増田へ二里五丁 二間 今宿へ二里九丁
 五拾間 沼館へ一里二間 田村へ三丁 四拾歩
 市日 朔日 四日 六日 十日 十四日 十六日 廿日 廿四日 廿六日 二

支郷 加羽園村 新堀へ先年家三軒あり今ハナレ將沼家十二軒有り 取子沼井野園谷地云ハ帳ノ字ニテ今ハ村居ナシと見え
 豊前谷地村 家負三軒 蛭野村 同廿軒 本新子川村

家三軒ノ処 蛭川村ノ移レ

大中湯村同八軒 上中野村同十軒 高江村同九軒 高
 野村同十九軒 五味川村同十二軒 沼下村同十七軒 道川村拾軒
 先年徳藏坊ト云山伏開地ニ 下中野村 師人慶ミ引云々ト是之ニ 此津家の御より

東代方ハ醍醐村西ハ今宿村ナリ南ハ植田村北ハ田邑ナリ

津家の肆坊の名ハ 貫所六日町 本所ニ 貫所ハ明應六丁

年ニ建創リ本所ハ慶長十三町ニ始リ及さりければ此町今ハこと
 処移てその慶長ニ在リ跡ヲ古本町ト云田地字ト成り今ハ本町

ハ新本町ニ 六日町ハ元和三年に始リ 貫所六日ハ南北に江後

本町ハ東西ハ街ニ 津家の城主小野寺左京亮藤原友光の城跡

ハ西の方の田ノ中ニ在リここに寺彼ノ地ありハ長雲山龍

泉寺のありし跡ニ此古城の旧蹟ニ近き所ト宿館ト云是之ニむ

残る菅神社の田の^{オタノ}風神^{フウジン}を齋^{イハヒ}まつてとりに座^{マデ}いむりのまは
 と人^{ヒト}をあらやびぬづきま^{ミナモト}は宿舎^{ヤドヤ}の西の方^{ニシノハタチ}に大宮川^{オホミヤガハ}流^{ナガレ}れ
 と^{ナミ}響^{ヒビ}刀^タ割^ワ竹^{タケ}奈^ナ割^ワ柳^{ヤナギ}割^ワとふありしが今^{イマ}ハ瀬^セと勢^{セウ}り流^{ナガレ}し
 其^{ソノ}河^{カハ}な^ハあ^ハれ^ハと^ハ留^{トモ}子^コとふ名^ナあり^ハなり^ハの木^キ水^{ミヅ}に^ニ流^{ナガレ}し^ハし^ハ秋^{アキ}
 さりぬれ^ハ風^{フウ}吹^{フク}こ^ハに^ハ大^{オホ}宮^{ミヤ}川^{カハ}に^ニ落^{オチ}流^{ナガレ}れ^ハし^ハも^ハ今^{イマ}ハ枯^{カレ}る^ハま^ハ市^シ陣^{ジン}屋^ヤ
 のお^{サマ}子^コとて^ハ事^{コト}経^タる^ハ北^{キタ}狐^{キツネ}ま^ハむ^ハふ^ハ今^{イマ}ハ^ハけ^ハる^ハか^ハ大^{オホ}拘^{コウ}束^{ソク}ハ^ハ宿^{ヤド}舎^ヤの
 裡^{ウラ}門^{カド}の境^{サカイ}に^ニ在^アり^ハ此^{コノ}前^{マエ}に^ニ大^{オホ}宮^{ミヤ}寒^{サムイ}泉^{イハヒ}あり^ハむ^ハり^ハ是^{コノ}を^ヲ藤^{フジ}沼^{ヌマ}とい^ハひ^ハふ^ハ
 か^ハ大^{オホ}藤^{フジ}の^ハあ^ハれ^ハと^ハて^ハる^ハ名^ナあり^ハ今^{イマ}ハ^ハ拘^{コウ}束^{ソク}清^{セイ}水^{スイ}とい^ハふ^ハ云^ハい^ハふ^ハの^ハう^ハれ^ハ
 此^{コノ}泉^{イハヒ}の^ハま^ハは^ハ琵琶^{ヒヤ}小^コと^ハ呼^{ナヅケ}ば^ハさ^ハり^ハけれ^ハば^ハ人^{ヒト}を^ヲ琵琶^{ヒヤ}清^{セイ}水^{スイ}と^ハ唱^{ナヅケ}ふ^ハ云^ハふ^ハ
 う^ハな^ハあ^ハる^ハ事^{コト}う^ハれ^ハる^ハむ^ハり^ハの^ハ藤^{フジ}沼^{ヌマ}ハ^ハう^ハ藤^{フジ}清^{セイ}水^{スイ}とい^ハふ^ハその^ハ藤^{フジ}
 あ^ハり^ハて^ハこ^ハう^ハれ^ハま^ハう^ハ藤^{フジ}沼^{ヌマ}の^ハ名^ナ俗^{ソコ}言^{ゴン}と^ハ琵琶^{ヒヤ}清^{セイ}水^{スイ}の^ハ名^ナを^ヲ雅^ヤ言^{ゴン}と^ハす^ハえ^ハる^ハ

寒。

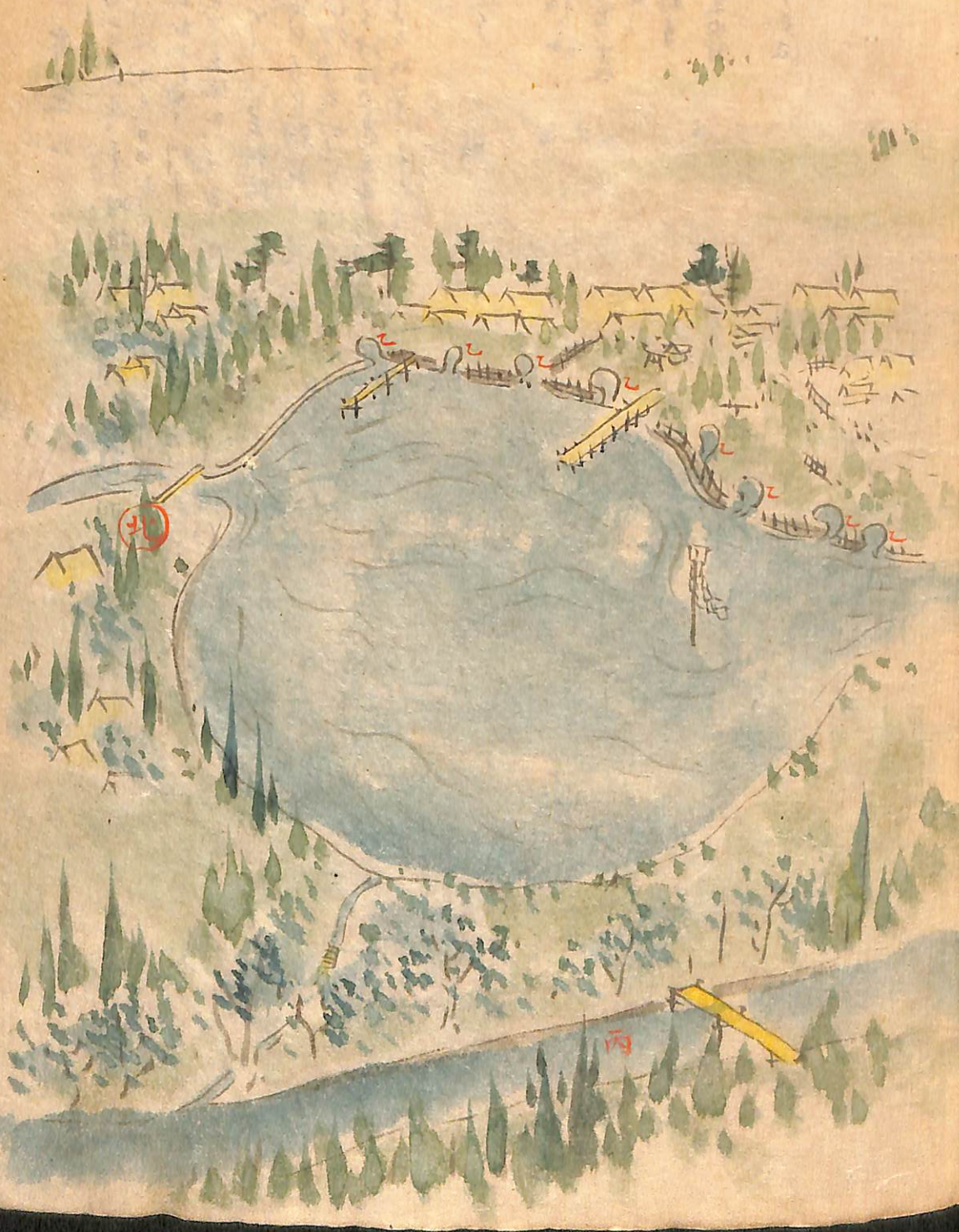
此^{コノ}琵琶^{ヒヤ}清^{セイ}水^{スイ}ハ^ハ水^{ミヅ}の^ハ中^{ナカ}心^{シン}ハ^ハ深^{フカイ}く^ハ深^{フカイ}き^ハ処^{トコロ}二^ニ尺^{セキ}あり^ハま^ハう^ハあ^ハる^ハ
 水^{ミヅ}の^ハ廣^{ヒロシ}さ^ハハ^ハ六^{ロク}拾^{ジュウ}八^{ハチ}間^{カン}あり^ハ東^{ヒガシ}西^{ニシ}の^ハ中^{ナカ}ハ^ハ二^ニ間^{カン}廣^{ヒロシ}き^ハ処^{トコロ}ハ^ハ大^{オホ}拘^{コウ}束^{ソク}の下^ノあり^ハ
 六^{ロク}間^{カン}あり^ハ南^{ミナミ}方^{ハタチ}ハ^ハ琵琶^{ヒヤ}の^ハ轉^{マユ}手^テは^ハは^ハし^ハゆ^ハり^ハ此^{コノ}轉^{マユ}手^テの^ハ処^{トコロ}ハ^ハ水^{ミヅ}止^{トメ}る^ハ所^{トコロ}ハ^ハ此^{コノ}
 琵琶^{ヒヤ}清^{セイ}水^{スイ}ハ^ハ準^{タマシ}ふ^ハ檢^{ケン}面^{メン}か^ハて^ハ水^{ミヅ}の^ハ廣^{ヒロシ}さ^ハハ^ハ六^{ロク}拾^{ジュウ}八^{ハチ}間^{カン}此^{コノ}寒^{サムイ}泉^{イハヒ}ハ^ハ覺^{カク}町^{チヨウ}
 の^ハ後^{ノチ}日本^{ノチニッポン}記^キミ^ミ覺^{カク}繁^{ハヤシ}柳^{ヤナギ}あり^ハ此^{コノ}覺^{カク}繁^{ハヤシ}ハ^ハ蝦^{エビ}夷^イ語^ゴあり^ハむ^ハり^ハの^ハ人^{ヒト}が^ハれ^ハ西^{ニシ}後^{ノチ}ハ^ハ琵琶^{ヒヤ}泉^{イハヒ}の^ハ端^ヘ
 カ^ハク^ハベ^ハフ^ハハ^ハヤ^ハリ^ハベ^ハツ^ハニ^ハシ^ハヤ^ハリ^ハハ^ハ夏^{ナツ}と^ハ云^ハい^ハへ^ハる^ハ河^{カハ}を^ヲい^ハふ^ハあり^ハ
 之^{コノ}此^{コノ}端^ヘハ^ハ小^コ清^{セイ}水^{スイ}あり^ハ其^{ソノ}實^ミハ^ハ十二^{ジュニ}泉^{イハヒ}其^{ソノ}家^{イヘ}戸^ドハ^ハ此^{コノ}清^{セイ}水^{スイ}ハ^ハ汲^{ヒキ}ぬ^ハる^ハ形^{カタチ}或^ハ
 ハ^ハ長^{ナガ}く^ハ或^ハハ^ハま^ハる^ハて^ハあ^ハり^ハつ^ハる^ハ半^{ナハ}月^{グハツ}圓^{エン}月^{グハツ}の^ハ象^{ゾウ}を^ヲあ^ハて^ハ琵琶^{ヒヤ}の^ハ縁^{ヘリ}を^ヲ依^ヨり^ハな^ハる^ハ此^{コノ}十二^{ジュニ}
 あ^ハる^ハ小^コ清^{セイ}水^{スイ}ハ^ハも^ハち^ハあ^ハる^ハ琵琶^{ヒヤ}清^{セイ}水^{スイ}ハ^ハ落^{オチ}添^{ソヘ}ぬ^ハま^ハ琵琶^{ヒヤ}清^{セイ}水^{スイ}の^ハ兼^{ケン}伝^{デン}ハ^ハい^ハり^ハく^ハ女^メ
 流^{ナガレ}小^コ海^{カイ}と^ハ作^{サス}て^ハめ^ハぐ^ハり^ハて^ハ龍^{リウ}泉^{セン}幸^{サイ}林^{リン}泉^{セン}入^イり^ハて^ハ泉^{セン}水^{スイ}廣^{ヒロシ}湛^{タン}を^ヲれ^ハる^ハ
 流^{ナガレ}り^ハて^ハ巡^{メグ}り^ハて^ハ清^{セイ}水^{スイ}川^{カハ}い^ハい^ハ林^{リン}崎^{サキ}と^ハふ^ハ地^チを^ヲ經^{スル}る^ハハ^ハ五味^{ミヅ}川^{カハ}と^ハふ^ハさ^ハり^ハけれ^ハば^ハ五味^{ミヅ}
 川^{カハ}村^{ムラ}名^ナあり^ハ此^{コノ}五味^{ミヅ}川^{カハ}入^イり^ハて^ハ六十^{ロクジュウ}町^{チヨウ}の^ハ田^タ地^ヂを^ヲい^ハり^ハて^ハ福^{フク}豊^{トウ}ハ^ハ琵琶^{ヒヤ}寒^{サムイ}泉^{イハヒ}を^ヲ五味^{ミヅ}川^{カハ}
 假^カ名^ナ

後世村四

○大枸栗樹 ○琵琶清水
○菅神社 ○官舎



○甲琵琶寒泉
 乙十二清水
 大宮川丙
 丁鷹塚



(北)

○甲蘇臺，松○乙

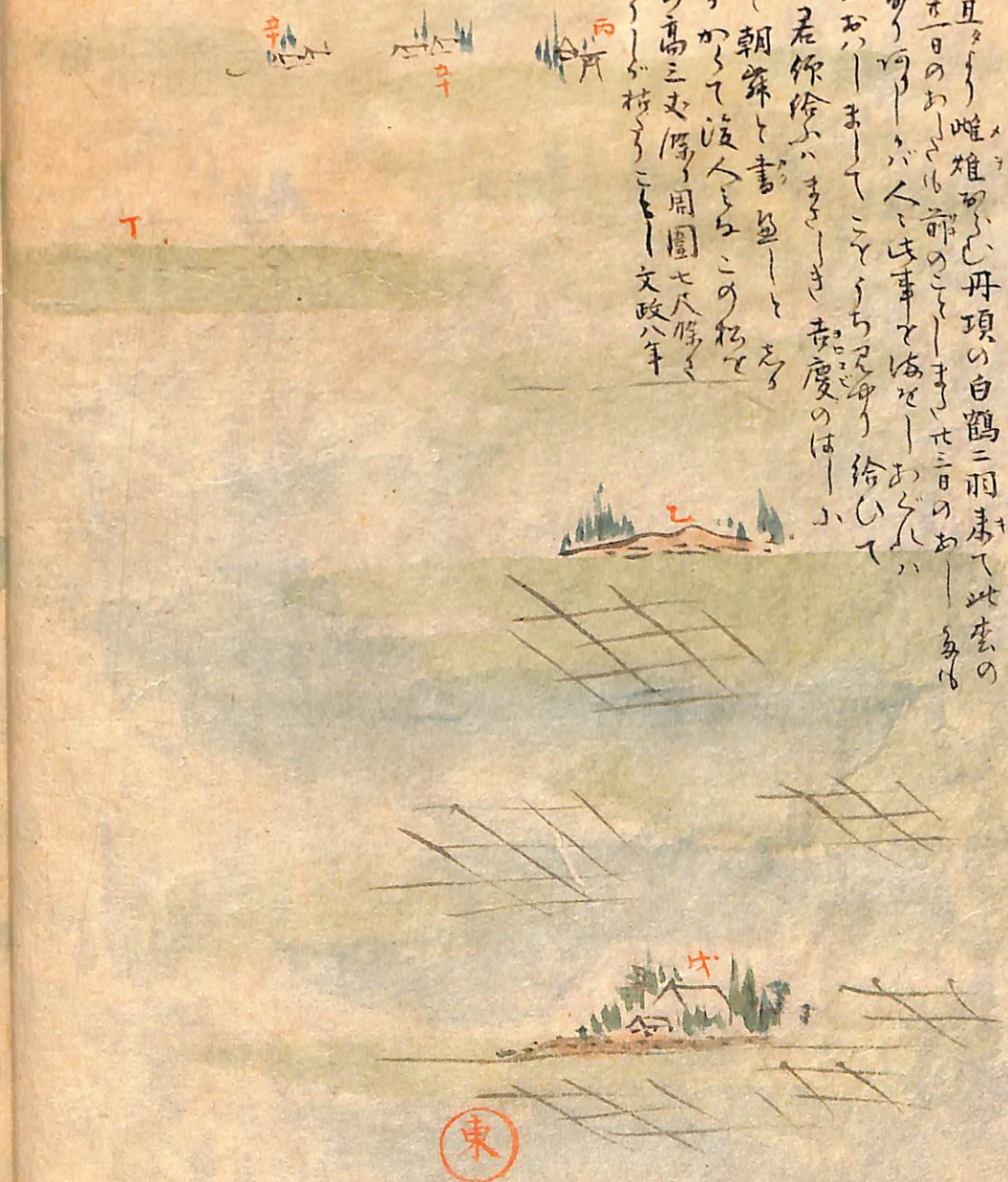
白山の社、丁八幡宮の古社

少祠とちー汁と建)

戊辰泉寺巳亥福壽

廣諏訪社、樽見肉村

多福寺田屋
遠く小見寺より



林崎村甲
 國中山大宮寺
 上面觀世音
 大宮川丙
 丁
 水
 水过塚



清水翁物語

此ふに清水翁の旧跡もれ新古のものとあつたの古老の母に残りて
やむいふまゝあつた求めて書き集めたる一巻にすゝおはきりこれれ
果ふれふれと書き得る事どもあつたがけりすゝおはきり事どもえおは
事ども多ふれあつた事どもあつた事どもあつた事どもあつた事ども
あつた事どもあつた事どもあつた事どもあつた事どもあつた事ども

むうし 鑑照院に市休の跡に市休屋建て柵中に天神宮田神

市會殿に又藤沼と清水の是五味川の水よ此清水の形いゝ
琵琶に似れ誰ふとて琵琶清水と云ひぬその藤枝がまゝはらば藤
沼も藤清水とも今もあつた琵琶清水の名に雅言に此是等のいふに
あつた北へ長き清水も清水前川の南に其川に竹原山刀割を

つゝ十二清水琵琶清水の覺所の西裏におゝぬ此覺所の南北に通
即休の南浅草川の外ハ本町通ハ東西の往来ナリ又川の外面ハ
宿館より南北へ通ふ此ハ六日町東西へ通り西端ハ庵あり此
庵の前を左へ通り宿館へ通ふその道こそ西の方古城の跡あり
まゝ六日町覺所の間と中町より此境ハ龍泉寺東向ニ建奈
覺所の明神左ハ中町の蛭兒社あり又六日町の中ハ市神石あり此
石夜中ハ天より墮るるといふその音御中よむべきこととすまは
かといふて傳ふ其石と今ハ人の軒下ハあると云ふ此むじむ福荷明神
社あり此社を本町の宮の吉祥院の元道田あがり子福荷社ありか少
り中吉田の吉祥寺の法印貫て行合とて又いひて此福荷の
社といふ此社雙院番匠が作といふその世のものハ桁標のまゝ外は後ハ

修理を加へて圓り庵といふ津土川の庵あり此向ハ野中との野中ハ
鍋子清水といふ此ハ浮浪人住て其妻清水ハ鍋で洗ふ其鍋つて
水底ハ引き入るハ鍋ハ清水の各あり鑑照院君の御手鷹の箭で鍋子
の清水の本の梢ハ本底あると云ふ浮浪人針として手裡剣としてうりうり
あやまき其針鷹ハ兩眼で貫きぬ鷹ハ本底よりいそいで落て死すその
鷹を各りて逸物と云ふ君より愛養せ給ひ鷹ハ人いりぬ
つゝ行ハれぬと書きて引具ていつこころ去けり其死こり鷹を
師憩の砌近き杉の下に埋め給ひて鷹塚とてありハ陣營にたて後ハ
今の市役舎よりハ市鷹塚とて又覺所ハ蔭沼町ハ薬師堂
あり是ハ本ハ薬師如來の堂といふ天満天神の社ありハ他國
より来り修驗者と別當といふ恒ハ常依り信心を事人ハ

起る人の物語に此の横所の松屋の質店が薬師如來の佛像と取りつゝ
夜刻此質店が二階鳴動する事あると後人別當するその薬師の
霊像のときわけの松屋に置きしるなりと云ふなりと云ふ横所の松屋に
て此事を問ひ別當一貫文の銭を出して其像を給ふといふ松屋の主人幸
の事此像が布施物なりと云ふ松屋と云ふに別當いふさうに給ふ
といふ主の云々其事に此佛が質する石祥なる事のも多ければ此佛の
まゝと云ふて大に悦び守りて天神の祠に會殿に安置する事多
きやうの事絶ぜぬけりけりなりと云ふ南部の人來て其の拜せ給ひし
別當何の心なり申すなりと云ふ南部人の云此松屋を盗人の取つて
こふなりと云ふに此坊に薬師の尊像を此の松屋に置きしと云ふ事
まゝなりと云ふ御ありやくに此佛なりと云ふなり此佛をとりて

返し給はれある人の云けりて止めしむるなりと云ふに金一兩にて
いふ南部の守護一返り此別當ありて力ありとの事なりと云ふ
夜半計り夢なりと云ふ事なりと云ふなりと云ふ別當手なりとい
ふなりと云ふ神の師前なりと云ふなりと云ふ南部持去り薬師如來の尊像天
神の神像と云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふ南部又
人の来り計りけりなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふ南部
別當なりと云ふなりと云ふ又此堂の内へ飛來して天神と云ふなりと云ふ南部
人なりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふ別當のつとめなりと云ふなりと云ふ
いて返り別當願てきて此社を薬師如來の堂と云ふなりと云ふ神の社別當建て
祭る其時天満宮の神像ありと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふ神の尊形なりと云ふなり
此古き天満宮の神像を新造する神像の腹内に就するなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり

此菅神の字形でうちぬきまはゆ物ありて鳴くそのみづの内に
りたふくまゆめ安永年中回祿て縁起古記事も付くまは古老
の付てすき決るのこころ一ゆせ南部を島内の人此まゝ来て此の根
深の業人ふだふとてあむいあるゆき此東仲東の物語ですてい
拜禮すてつが師の薬師を拜ししとほびといと蔭沼所の側小蔭沼あり形
下弦の月のぬり長て同才廣間計をがわつばうといと廣しきその小川の
向う方より十王堂あり圓光大師の裡か享保某年田中町某三人と記し浅廻
村あり此十賄佛形を作りて至て古くしてきて脱衣婆かといと記し形
像に此堂より夜に即ち若男等諸足とて投すれり事ありて反枕
かどあやき事あり十王堂に此隣あり配當屋あり
鑑照院君の建屋に給ひるまといりま本所の上方に橋あり本所橋あり

本町通り西より四圍廻り町あり小堰あり此止まに玄福寺あり此町通り
より田中町へ出て八幡川横より田中町より諏訪小路のむちの
わはらの草入り中ふあやの石佛あり其形何佛とも足るかに
こは不動尊といふ者ありといふて足るもあり事ありや
此者いへてあむむいあむ邪魔ある石佛といへ八幡川へつふと投て
いふ此者ふ宗といふぬねに神子が持むまはる不動明王といふあつめ
まじ神子といふとすていふに揚々なるてその処ふまゝ
といふそのまは移託する不動明王といふまゝといふ
此清浄より東より方ハ

十五野明神醍醐街道の西より出て此十五野は田村境南方より十五
野色に續てやこりふ松原ありて本郷といふ秋と初年より

傾城塚 道川村横手街道の南へ横通り之稻荷ノ社あり
念佛塚 四家享保年中まで三家ありしが今に畑となり
清澤の村添ひに 長沼是れ享保のころハ大沼ありし
今ハ長ヲ一丁みくらば廣リ七八間計の長沼に 新堰此堰より
寛政のころまでハ新釣人ノ多かりしが今も新ハ之にあら
釣人とい稀なり

清澤の西の方

諏訪明神 享保のころまで諏方小路ありし今も一家
ありしに 八幡の社跡あり 享保のころハ幡小路とありしが
市社とこの処へ移して今ハ小路も田畠となりぬ 八幡川今も
あり田中所の中へ横通りして田社の跡よりみゆに 古城の跡あり

舞臺ノ松 折橋むらり家あり 処舞臺の松家五戸
あり 処より 白山ノ社此近き処の田の字に 櫻吹サクラフキノ名あり 乱世
の時世の名ありむらり 柳子塚 ぬるま清水杉四軒あり 風のこめ
寛政のころぬるま根こしやれぬものわけよりしつゝいさうてで
ありける清水も涌出する事 温泉のこもく 数ヶ処に在る

清澤の南の方

坊塚 此の坊といふ事なるべ 平澤家三軒あり 何屋権現
社あり 坊塚の東へ中して田中町の端より 峠町といふ字ありむらり
ハ家多かり 処よりみくら 田記清水此近 今も林あり
清水ハ八幡川へ落ふ林の向う田記をよみ跡ありしハ 続清
水ハ幡川の水上に此下ハ堤あり 四方へ水分れ多ハ八幡川へ

入江 サエムタラウ 左門太郎明神と云稲荷神あり此あるの田畑の字
を並ぐ 野之助と云ふ明神も野之助といふ太郎が
之神明宮別當下村伯耆正之櫻清水柳瀬いづれも
近き世のものといふ八幡宮寛年中古八幡の社
此地より遠くあり一享保のころ此家二家ありて
家々云い一処あり此隣地は龍泉寺の開居佛刹あり
大石の法篋印塔あり一此塔明和のころ龍泉寺へうつ
て其寺より塔のあり一源ら土取り穴とあり

海部、業方

國中山大宮寺勸世音林崎村大宮加羽新平川是し
加羽四村と云ふ加羽の金毘羅神由来多しと云ふ

小場氏話

小場信興玄碩といふもの家の家元賞所あり古陣宮
あり一と云ふ此の家の裡あり道真重とあり一と云ふ小場
氏の孫廟のありと云ふその陣宮の具ありとありてむらて
やうと云ふて給りまゝ高腰のあり障子もあがり市館のもの
是れ多しづて此家に残りぬまゝと云ふ世を偲ぶと云ふ
まゝ庭の作り松大樫などありてて小場氏家祿ふ

鼻祖と大職冠鎌足公十四世大炊師門大納言経實廿世
内大臣冬信之ニ男從五位左衛門依信愛五代左衛門依
從五位易胤・九代兵部次郎胤長・嫡子・藤原久
家之小場道慶字子達明暦元乙未年二月十日生

寛文十庚戌年 醫字於井筒逸庵延寶三年 皇
都浅井右馬頭為門人天和元年加判青木玄養為門人
寓平鹿郡浅舞村曰濟生館不傳其甲子享保三丁末
正月十二日卒七十三端龍軒逸巖宗俊信士文政二己卯
年二月謚居士號云々々々々々當代五世信男玄碩六
代信胤玄珪共々健々々々 家藏品

高辻大納言荆芒園 神農靈形画讃

猿猴画大炊師門左大臣信宗卿

佐羅陀山地藏大士大炊師門左大臣信宗卿上祖への

たまひの之其佛形一寸汁ノ紫銅

浅舞本郷神社十五座

神明宮社地

南北西間
東西廿五間

蔭沼とて

民家の南方小一丁治三

年庚子三月三日

齋奉り

春余三月三日
秋余九月十六日

神主下村伯耆正果

伊豆權現社此所神ハ走湯權現とて

瓊々杵尊を齋り

此社ハ

社地

南北西間
東西廿七間祭日四月三日別當

修驗清光院

諏訪社地

北間

所射山

祭七月廿七日別當

修驗寶龍院

正八幡宮社地

廣十四間南北
東西廿五間

祭日八月十五日別當修驗

三光院

白山姫神社社地

東西廿四間
南北廿三間

祭日五月五日別當清光院

稻荷大明神社地

東西廿四間
南北廿三間

祭日六月十日別當同院

稻荷大明神道

川村小座

祭日一別當同院

稻荷大明神十五野

座

祭日四月廿日別當寶龍院

藥師如來、社高見少座、祭日四月八日別當寶龍院

十一面觀音林草大社、祭日七月七日別當清光院

八幡宮月板草沼下村少座、祭日八月十日別當三光院

稻荷大明神社、祭日九月九日別當同院

高野、稻荷大明神、祭日九月九日別當同院

高口、稻荷大明神、祭日九月九日別當同院

六日町後、稻荷大明神、祭日三月九日別當清光院

此里の人十四社まゐりてふ事とてまゐりてハ
神明宮を先として十五社で在りける本郷の
十五座の御神々ハまゐりて板村のミヤにハ
此内とわづかする事

社家下村氏

下村河内守藤原定良明和二年乙酉七月廿九日寿七十九
神去 大和守藤原定信天明元年辛丑正月八日神去
伯耆正藤原定則當代、神職ニ

社家高橋氏

蛭見宮、社人高橋正太夫、家ハ系譜連綿シテモ、
高橋家ハ安永七年のころ焼失シテ古記録等
も、今七世小玉より當代高橋丹後正始テ位階も、

修驗寶龍院

開祖々梅本坊快存より由來、近代の年月々、二世
清法院慶宗、近代寶永の頃、三世醫王坊快慶寛保三年

四世本妙院快宗遷化年月不知 五世法林坊宥如延享元年
六世寶龍院宥鄰閑居存命 七世法了院現住宥鶴天明
七年丁未三月十一日焼亡て舊記傳もして委曲なり

修驗三光院

開山三光坊貞快宥蓮天文十三年甲辰五月七日化二世小
野坊宥灌天正十八年庚寅八月九日 三世三光院快住宥
巖慶長四年己亥二月九日 四世圓字坊宥快慶長十八年
癸丑七月廿二日 五世清光院宥享正德三年丙戌八月十
七日 六世般若坊宥貞延保元年癸酉六月四日 七世清
光院宥傳寶永二年乙酉七月廿八日 八世清光院宥峯
享保十二年丁未七月廿八日 九世中興開山三光院貞祥之

此九世貞祥代清光院より別當たり享保十六年辛亥化十
世三光院宥正明和三年丙戌八月十日 十一世三光院実道宥
如文化二年乙丑三月九日 十二世三光院宥峯現住代

修驗清光院

此清光院鼻祖ハさぶらゝ修驗のりわらひ國仲山大宮寺
を草創しつゝ此まゝ十二面觀音の靈像ありし神龜四年
の棟札の朽残りありし人々云ひ傳ふの事神龜四年ハ聖武
天皇の御代の始なりて同し年の九月渤海郡使首領高齊德
等八人來テ著出羽國遣使存問兼賜時服云々と續日本紀
十卷より見ゆる事なりといふれどさしてそれありとあるは
あつたが國仲山大宮寺といふより高齊等の号を記したる行基

僧正の開基の松宮養老寺ハ艱老七年に行基菩薩の開闢の靈
刹之續日本記十七卷小天平十九年二月丁酉大僧正行基和尚遷化和
尚八藥師寺ノ僧俗姓高志氏大和國人也和尚真粹天挺德範風
彰初出家讀瑜伽唯識論了其意既而周遊都鄙教
化衆生云々時人號曰行基菩薩留止之處皆建道場五
畿内ニ凡四十九處云々此地ハ都鄙小建スル其道場の
一ハ小ノ松宮の養老寺ノ草創小迫さるる所ナリけれども世々
ハ國中山大宮寺ハ法相の僧侶集ル六經上論ニ式リ天竺ノ
ノノ八百ノ寺ハ經ノ今ハ修驗者の寺トハナリぬものあらむと云
くノ間ハ香曲ノ知ラヌ事ナリハ中興の祖ハ光坊
貞快宿達スルニ光院ハ又祖ニ天文三年甲辰正月遷天比

二世小野坊宿灌天正十八年八月九日 三世三光院快住宿巖
慶長四年二月九日 四世圓字坊宿快慶長十八年七月廿二日
五世清光院宿亨正保三年八月十七日 六世般若坊宿貞人
延寶元年六月四日 七世清光院宿傳寶永二年七月廿八日
八世清光院宿孝享保十二年未七月八日此代三光院分
院トシテ 九世清光院宿春元文五年二月廿四日 十世清
光院宿宗寛政三年四月二日 十一世清光院宿真文化七年
十二月十三日 十二世清光院宿現現住院中寶物ノ古物の及
びノ開祖ノ付ふといハテ義經并慶ノ及ハル品多ク

曹洞宗龍泉寺

長雲山龍泉寺 増田村正法山滿福寺ノ末寺ニ則滿福寺

三世八當土寸開祖 梅羽正倫和尚之文是元年辛酉六月十七日
二世梅室壽仙和尚寺煥こして近代の年と云ふは廿三日で齋日
三世天室祖貞和尚年号不知十三日 四世弘印天室年号不知
晦 五世峯室禪宗和尚年号不知三日 六世澤山智勝和尚
年号不知十六日 七世將山源良和尚年号不知十八日 八世國洲
大雪和尚年号不知廿四日 九世欣峯知悦和尚年号不知
十五日 十世超外玄欽和尚年号不知廿八日 十一世大月智鑑和
尚年号不知十三日 十二世夢又宅古流和尚 年号不知五日 十三世
南叟良天和尚年号不知廿一日 十四世寶林山宗泉和尚年号
不知廿五日 十五世少流觀印和尚寶曆五年正月三日化 十六世
本秋觀極和尚ハ土崎の鎮梅院、岡山之をゆく松原山の古き

和

と無等良雄禪師の開基に其寺を久しく破壊あり其の
有りつゝ谷はもとて土崎の湊に興^{ナリ}建^{ナリ}て無等良雄和尚ハ
万里小路藤房の師にそのゆゑよりいり長ければ云ひて
都^{ミヤコ}此^{コノ}所寛永元年六月五日 十七世洞嶽良仙明和七年三月
十七日 十八世奎山嶽極光天明二年二月十九日 十九世桂岩白程
同年十二月廿二日 二十世滿外寛元寛政二年十月三日 廿一世
辨中寛明文徳十年十月廿六日 廿二世智徳大賢文化十四年
八月十七日 廿三世普禪大説文政三年正月七日 廿四世現住
禪橋大禪之當時開基法名即山清心大居士浅舞城主
小野寺友京其友兄建立せり天正十八年庚寅九月廿九日
ありし石碑此まゝ在りし大門といふ所本流長七市

正

城を存ける時の裡門ウラカドとて此御刹ミヤノイハレとて今を今とて朽
てこそ本りて修ス修スせむの無本ムホンふりのハ残ハれ衆シユ天明
四年ハ小野寺大亮の二百年とて此海軍の將領カサキミふりの門
助タスケといふの一、焼香と手馴タマシぬ門助と其祖依麻カサシ等ナニとて大京
東友光の家老忠臣の家ありといふ長ナガ山ヤマの行書の額龍
泉寺の草書の額と共ト南岳悦山書カケり此寺ハ所詮陀律と
雲慶クモケイが作といふまゝ此五の石つとありといふ禪ゼン寺ジヤウとておぬ
け本尊ホンゾンといふお人のやうとて此寺永祿元龜のむろとて渾
土宗門の竹庵とてといふ小野寺家開基とて天正のころ曹洞門
といふといふといふといふといふといふ小野寺の古城といふといふ
といふ落城の後此寺といふといふといふ本尊の前より天井とてきぬといふ

寺海を造るや林泉の面々本といふも源く琵琶法師流し
ありありといふ泉といふといふ海山の嶺リウとて遠く本の間
とて新カケあらう誼話の湖ウミとて不盡フジンのうつとていふといふこや
矢ヤ走ハシの全良寺の庭ルとて海山とて富士といふといふといふ
の風景とていふといふ高きといふといふといふといふといふ

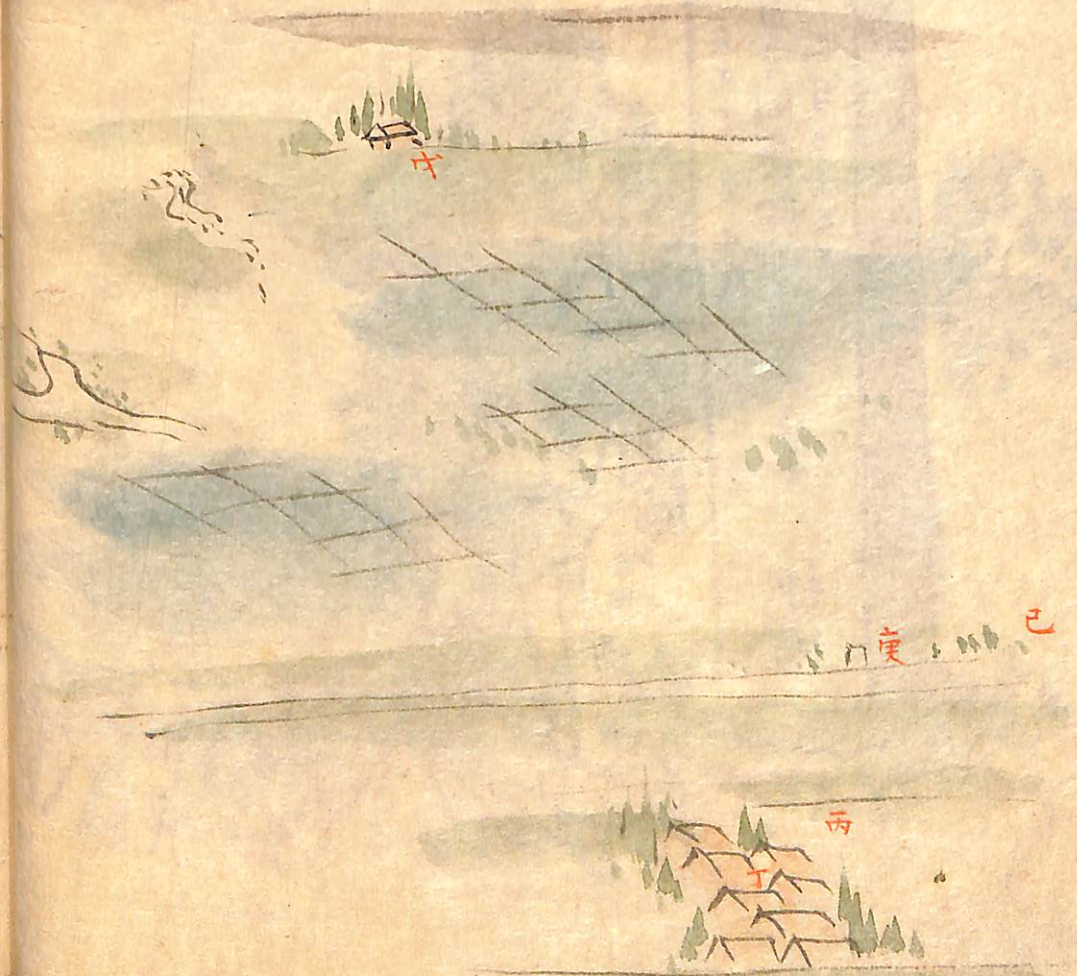
甲 小野寺左京亮藤原友光碑
 浅舞の三本木ハ御陣屋の栢栗木
 宿館の躑躅此龍泉寺の跡遠自
 切つがその岡自も枯れまてそのしでどの
 乙 大木も斧れまのふくごれくせて
 丙 の大栢栗のつゝを残りしり

甲 小野寺左京亮藤原友光碑
 浅舞の三本木ハ御陣屋の栢栗木
 宿館の躑躅此龍泉寺の跡遠自
 切つがその岡自も枯れまてそのしでどの
 乙 大木も斧れまのふくごれくせて
 丙 の大栢栗のつゝを残りしり



天正十八庚寅歲
 九月二十九日
 神儀

清康の城主小野寺友光の古城甲
 乙外堀馬出の堀ハミを甲乙と
 してふすき此こして堀と化れ
 てる其むうで為ふまゝ丙
 宿館とふ処あるむうの二家
 のあり処今と成家とある乙此
 亦か高き丈原の大跡踏ありと
 せしめられむうの前裁り
 まゝ圓る庵丙まゝ乙前乙まゝ
 庵無縁供養塔礎石まゝ辛島海山残
 雪のまゝまゝ

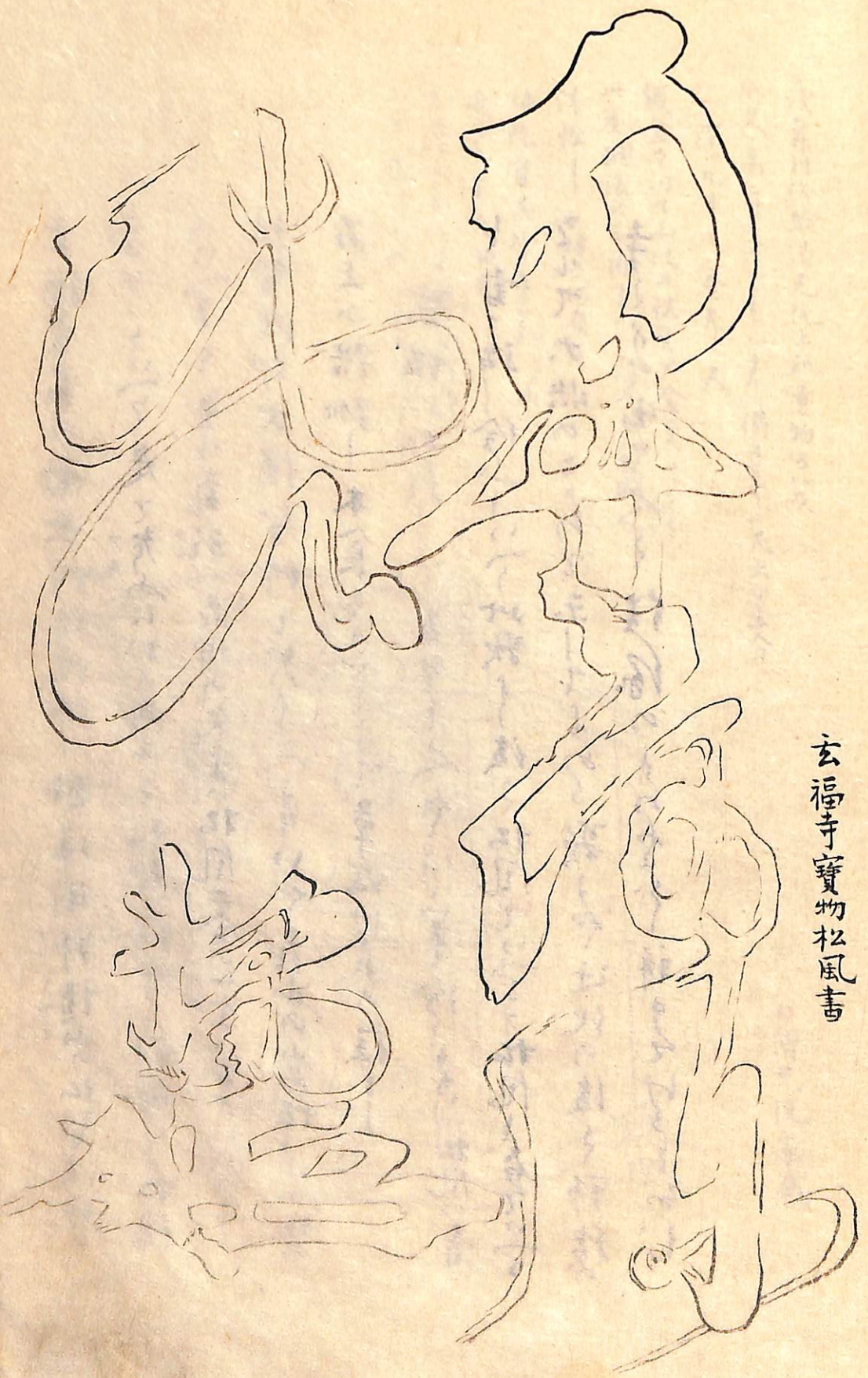


照升氏の家紋と雙龍子^{フタコ}に其字^{モト}青^{アヲ}をかりて田長^{タナサ}と村名
 とるゝいふこと

中世の書物に於て東本願寺の書物と云ふ

玄福寺

玄福寺寶物松風書



玄福寺家の南無河神陀佛、越後国野積山の弘智法印の
書りといふ是と考ふにあつた冊子に弘智法印の別號と松風
といふうゑも氣配かたの花押の文字、松風二念の一字とあつたやう
弘智法印大徳智行をわたり人といふや、彦山の岩板といふ處の
石上の踏跡——木食をきやくして草ぬけぬの程——

淺井村修驗清光院上祖遺物古竹及

丙丁深九寸中已全尺二尺

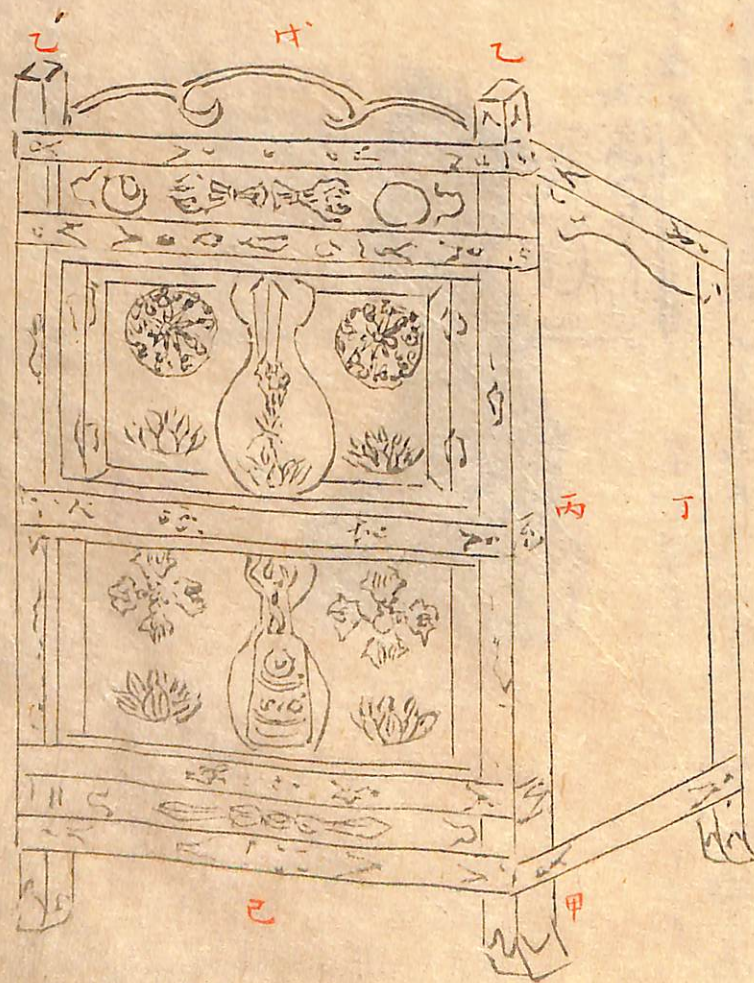
此及城後の三瀬より、このく金成
津輕より、出羽の杉原の

補陀育其外之

在りさま 凡おが

むろハミヤ

入道室よりあとおひつねを

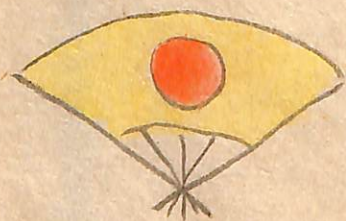


清光院家藏

此の間の戸は禪とありて鍍金して文殊菩薩、二菩薩等打出しあり
 西琵琶板の下小の戸丁あり又日月形の細板のものは戸あり

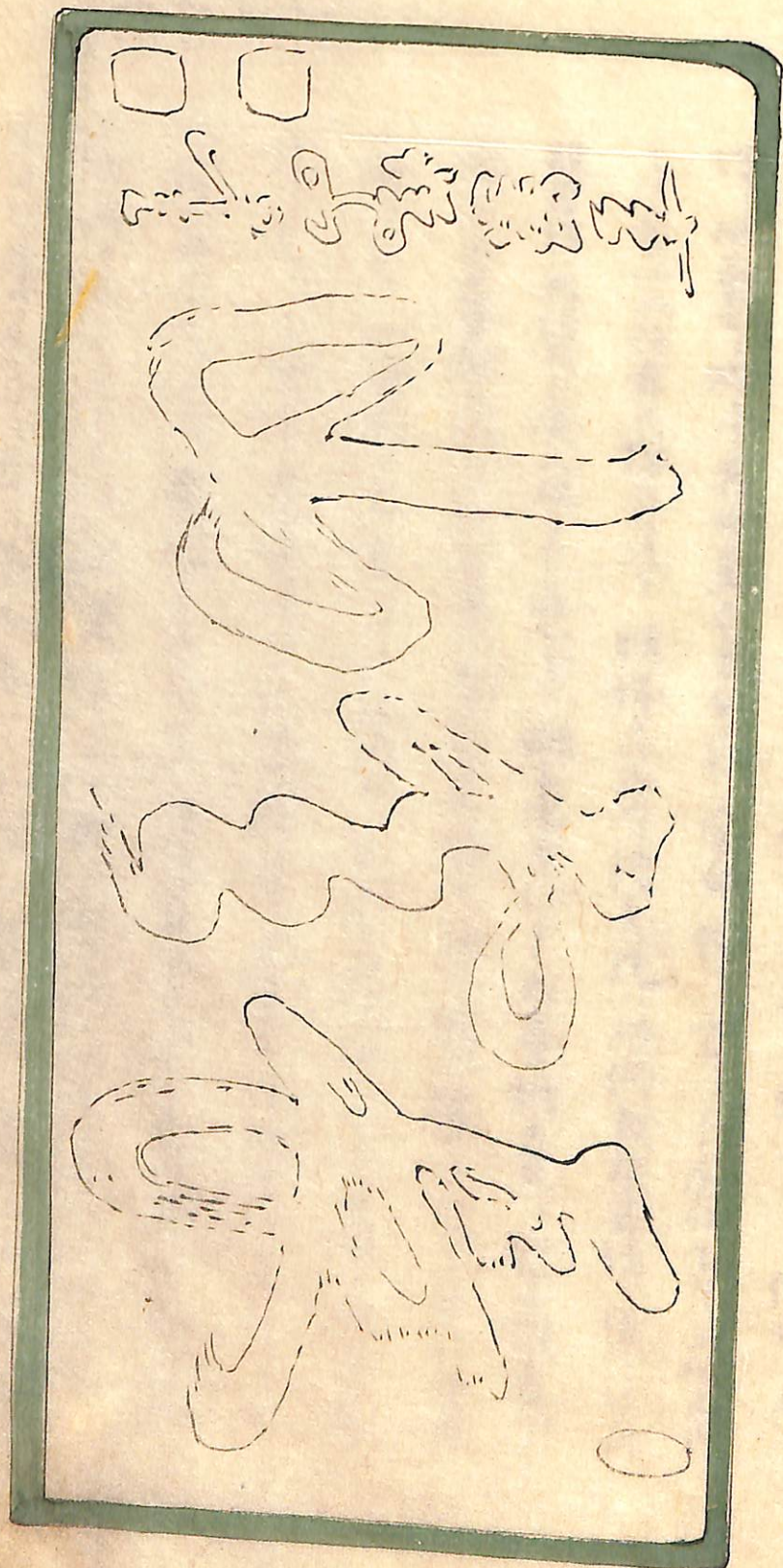


三光院寶物次第 初佛 片身と募す坐しむぐりまぐりすはつる
 〆〆〆 鑑照公法病の〆〆〆 平愈の〆〆〆 般若坊の〆〆〆
 市厨子の左右は扉の家の紋も法源院飯をきかしの戸の文字いも多
 りも〆 磨滅して見えぬ負意〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆
 見えてゐる下〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆
 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆



長雲山の額と南岳悦山の筆へ

○ 龍泉寺藏



けりてふに 君のまふハ鷹とてし鷹かゝるまふ捕らふ事ハ下その
 渡人ハせし人ニ針とてあて木枝とて鷹の眼ヲ打貫く捷輕あるその手練い
 り名人のむめりかむめりてさむりて罪咎ハ人々ノ肯^{かこ}て逃つんぢやんか
 給ふとせとあつた市仁^{にこ}人々をまてて其市鷹家と市惣の杉の本と存
 五治^{いご}ハ 長治 藤治 蔦治 物子治 越部の治ニ 長治ハ前々も記
 ぬく今ハ少^す成^{なり}ぬ 藤治ハ藤ありぬむむいハ志いハ治名の名なれ今
 二藤あり其泉形^{けい}既^け記^きく似れ既^け記^きはなりといハ蔦治ハこれぬまかや蔦と
 みて治の名村の存とふゆゑ一前々も記^きはなり 物子治むハ家^けありて破^やる流
 くるゆゑの名とふ清光院の棟^{むね}れふ物子治^けなれと記^きはなりといハ 越部のぬま
 治^し市^し膳^{ぜん}川^{がは}と流^り其^{その}時^{とき}の古^{ふる}川^{がは}とて今^{いま}は治^ちと化^{かは}る此^{この}ぬまに細^こく
 りにハ水^{みづ}深^{ふか}くともせしあやと事^{こと}多^{おほ}うとて此^{この}杉^杉園^園のま^ま積^{つみ}にハ人

こゝのぬまは立味河邑の知辰の方小中たり
沼下々村の東より南と上かゝて
上の廣々甲六七天其深り量りかどゝでが岸ナシへか
小沼多し此大九五天又傘の如く馬鹽の如く
まゝにタタ置るごとくあらは九分五厘のこゝろ
あるは世居のまゝのこゝろそのさま

心も亦自心の朝さく白気一物
 主の心も亦さく白帆の影いつこ
 へつるるるるる

其數ニツタ
ルハ
此帳
ニ
記
ス

命長ふりて
武蔵の津村氏の如く潭海にふ

いのみも 田うら 時ふきの田
白帆のつこもかくうつり来る

事
三
一
三



乙中高，上麻根是
辨財天社也

西竹石村回谷河邊部ノ
年島子存ノ

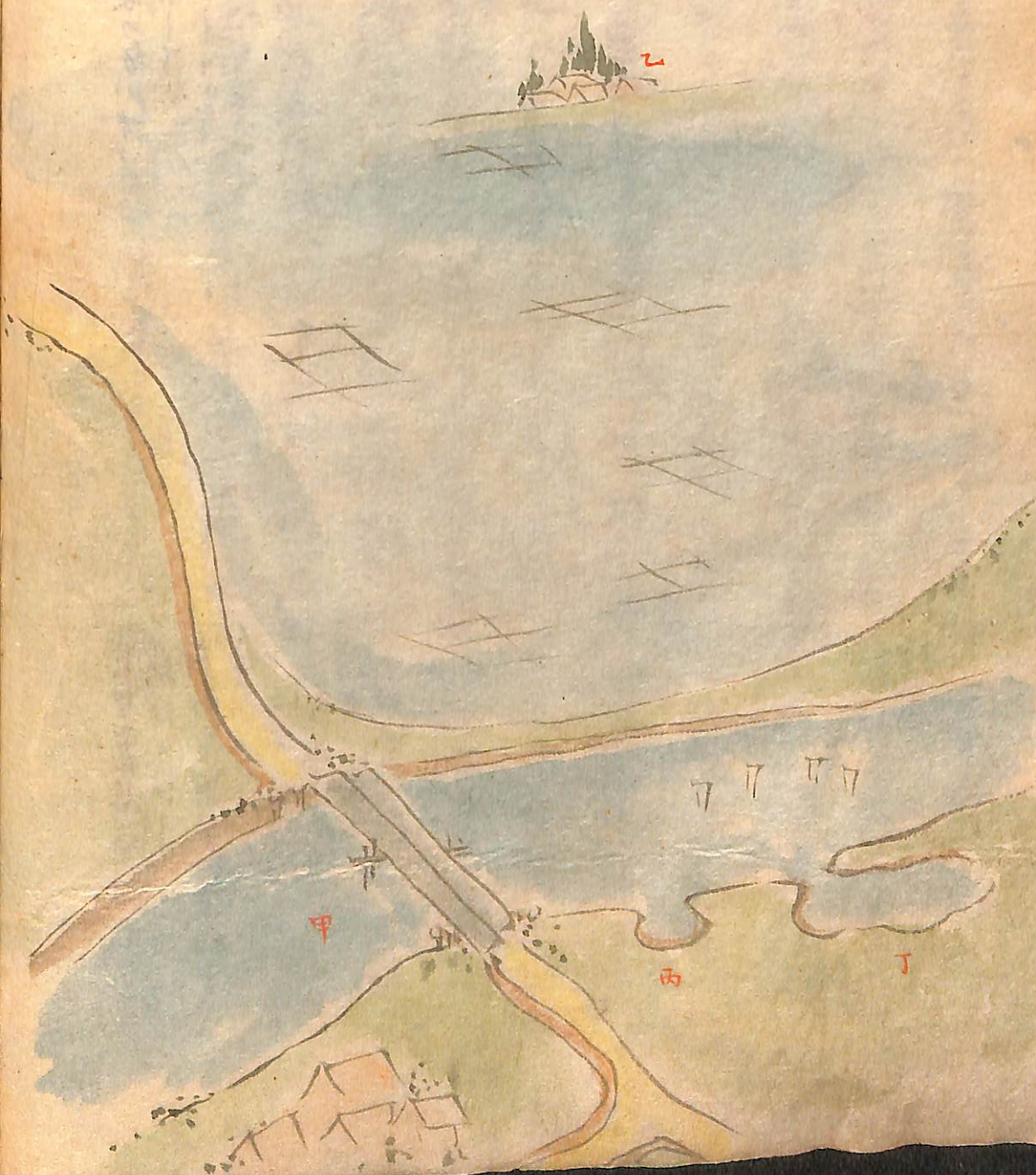
丁 漆、麻、枝、御、沼、下、文、々、
う、甘、ぬ、ま、ー、と、ハ、ニ、シ、ニ、一、ノ、

汚下々々子事之
此少汚不虫蚓也

餅々々々 杜又奠でつるハ
おここのつるハ

T

甲五咄川村此邑の町々ハ
 こゝの水を以て海
 下ニ藤根邑上茂根と曰
 中田村多御り
 西古沼田五同
 三同
 新沼丁文政年中ハ
 堀りし久堅四拾間
 横十五間あり此沼の田の
 親沼之此こゝの
 白蛇ふちのり
 白蛇の蛇丁
 乙
 けき



郡邑記小在津年村の枝郷と云保耳間と云り
 其世亦在り今ハ世々多る

大中嶋村 古ハ軒今九戸

神明宮 祭日三月十日 齋主大中嶋の村長が田神

龍王権現社 伊藤勘之進ふとのり此上祖々葛巻

中田の邊に在り此測りし龍の出て来て家々入り

子娘と捕りし事ハ是で神のめられある日測の邊の田の中

小龍文ある寶鏡と堀り得之此鏡を龍神と齋す

一ハ此海の中き止ぬい其神鏡も盗人のとりぬ
 冬祭日八月八日 別當三光院

上中野村 古ハ拾四軒今七戸

正一位稻荷大明神社 村中カの小杉の村々祭日四月九日別當同

下中野村

石井とて村あり郡邑記小郷人云ふに引移りて人皆引

蛭野村 古十世軒今廿六戸

いゝ蛇の多り地々甲蛭野の名ありまゝ蛭野
もやこりふり各一 九寒泉といふ名水なり此法より大キくその
泉の中に九ヶ処より涌き出づ今ハ二ヶ処よりこき出ていけり
まゝのまゝなりまゝなりまゝなり清水なり

水神社 余日三月八日 齋主 理助が田神に

豊前谷地村 古十三軒今九戸

いゝ豊前より浪人開きたるまゝなり 大清水といふなりこま角
間川の源に此清水川の流るなり川より中野中の清水といふなり

多きいゝわに流の疾くぬきり方言事より水の少熱なり

稲荷明神ノ社

齋主 佐右衛門が田神に

高口村 古九軒今十二戸

此高口といふ処いつこもいゝなりこきりて山北より

神明宮

齋主 七郎右衛門が田神に

稲荷社 余日九月九日

別當 田村、寶壽院

高野村 古十九軒今廿戸

寛文年中杉山派七郎といふ人龍を其末に名をいふなり

田字 今よりいづれなりいふ古名なり

神明宮 余日三月十六日 別當 三光院

稲荷神明ノ社 余日九月九日 別當 同院に

五條川村 土軒今十八戸

阿保五條堀あり五條川五條堀本下塵茂川塵不堀より
おん東より下吉田西より高野村南より新田川村北より野
五條川の水えと白合子谷地中より越部^{しづ}の沼より麻富村
出て中吉田櫻木林ふれりといふ

忠孝寺 稻荷寺より古社あり 地主忠孝寺が齋より

金守郎稻荷

齋主金守郎

道川村

秋田郡も道川村あり古拾軒今六戸此村の東より樋口
西より海原南より十五軒北より中吉田

稻荷神明社 余日四月九日 別當清光院

沼下村 古十七軒今九戸

此村に大沼ありさうければ村の名とす

八幡宮村の南より鎮座より 余日四月十日別當三光院

稻荷明神社沼の東より座より 余日四月九日 別當日院

本新平川村

郡邑記小家の軒ありかゝる高野村より住み今も
家ありその村の名のよてゆふのこ